

コミュニケーション活性化としてのコラージュ活用の試み4

—保育者と臨床家をを目指す学生のコラボレーション—

鳥丸 佐知子

(京都市教短期大学)

【問題と目的】

数年に渡り、様々な授業現場でコラージュワークの導入を試みている。自己理解・他者理解・相互理解を深めるための一手段としての導入であるが、体験学習でもあるこの類の授業では、同じ内容のワークを実施しても、それを受講しようとする学生側の在り方で、その後の展開が全く異なる場合も多い。これまでの実践結果では、通信教育スクーリングでの対人職を目指す（もしくは現職）メンバーにおいて、特に好ましいものとして受け止められた。鳥丸（2010 日教心）では、対人職のひとつである看護職希望者を対象とした調査結果を報告した。ここでの自由記述の中には、他者は自分とは異なるが「異なる個」として他者を受け入れた位というコメントも見られ、特徴的なコメントとして注目した。特定の職業を目指す学生への教育は、特に対人職の場合、自己理解・他者理解・相互理解などに何らかの影響を及ぼすのであろうか。今回本学内において、保育者をを目指す短期大学2回生と、臨床家をを目指す大学院生とのグループワークが実現した。双方のコラボレーションを通して見えてきた結果について報告したい。

【方法】

調査対象：保育者をを目指す短期大学2回生12名、臨床家をを目指す大学院生12名+大学教員1名

実施方法：補講日に2コマ連続の授業時間を設定して実施。実施方法は本大で鳥丸（2007, 2008, 2010）に従った。初対面のメンバーであったので最初にアイスブレイクを実施し、その後マガジンコラージュ法を使用して、個人で作成する課題Ⅰ「私」と、グループワークである課題Ⅱ「他者から見た私」の2枚を作成した。各5名のグループを5つ設けたが、それぞれ短期大学生と大学院生がほぼ同じ人数割合になるよう、ランダムに振り分けた。

【結果と考察】

グループワーク終了後、本ワークに参加してどのように感じたか「振り返り用紙」に回答を求めた。Table1は今回の振り返り用紙の短期大学生の集計結果である。またTable2は異なる2群による満足度の比較を表したものである。大学院生1名が途中で退出したため、データに不備のない24名について以下の分析を実施した。この2つの母集団は正規性を期待できないため、ノンパラメトリック検定のひとつ、ウィルコクソン順位和検定を実施した。その結果、短期大学生の方が満足度はやや高いが、いずれの項目においても2群に有意な差は得られなかった。次に振り返り用紙の自由記述内容の特徴について、作品のイメージや本グループワークに自ら参加された大学教員からいただいた感想も交えながら簡単にまとめてみたい。本ワークでは「私」がテーマになるが、短期大学生は「自分のお気に入り」をテーマに、大学院生は「今の自分の心象風景」をテーマに作品を構成するものが多かった。その意味で短期大学生の作品は色彩もきれいなものが多く、感想にも「好き」「楽しい」「面白い」等の言葉が多く見られた。一方大学院生の作品は（短期大学生から見ると）奥が深いものを感じられたり、作品を作るのにエネルギーを使うのか、感想に「疲れていた」「難しい」などの言葉も見られた。いずれにしても、通常はあまり接点のないメンバーの交流は、互いにとって刺激になり、後半のワークでは自らの「拡張」も可能になったようであった。

Table1 振り返り用紙の結果（短期大学生）

| 質問 | 内容 | 得点 | | | | | データ数 | 平均 | 標準偏差 |
|-----|--------------------------|----|---|---|---|---|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | |
| 1-1 | 十分楽しかったですか | 0 | 0 | 1 | 7 | 4 | 12 | 4.25 | 0.62 |
| 1-2 | メンバーの言うことを、十分聴くことができましたか | 0 | 0 | 0 | 4 | 8 | 12 | 4.67 | 0.49 |
| 1-3 | 自分の言いたいことを、十分話すことができましたか | 0 | 0 | 4 | 4 | 4 | 12 | 4.00 | 0.85 |
| 1-4 | グループワークは、十分満足できましたか | 0 | 0 | 0 | 5 | 7 | 12 | 4.58 | 0.51 |
| 1-5 | メンバーの理解は、十分できましたか | 0 | 0 | 1 | 7 | 4 | 12 | 4.25 | 0.62 |
| 1-6 | 自己の理解は、十分できましたか | 0 | 0 | 0 | 7 | 5 | 12 | 4.42 | 0.51 |
| 2-1 | グループは、十分安心できましたか | 0 | 1 | 0 | 6 | 5 | 12 | 4.25 | 0.87 |
| 2-2 | グループに親密感を、十分持つことができましたか | 0 | 1 | 2 | 5 | 4 | 12 | 4.00 | 0.95 |
| 2-3 | グループは、十分自由な雰囲気でしたか | 0 | 0 | 1 | 6 | 5 | 12 | 4.33 | 0.65 |
| 2-4 | グループに信頼感を、十分持つことができましたか | 0 | 1 | 0 | 6 | 5 | 12 | 4.25 | 0.87 |
| 2-5 | メンバーはグループに、十分参加していましたか | 0 | 0 | 1 | 3 | 8 | 12 | 4.58 | 0.67 |
| 2-6 | あなたはグループに、十分参加していましたか | 0 | 0 | 3 | 3 | 6 | 12 | 4.25 | 0.87 |

Table2 グループワークに対する満足度の比較

| (自分について) | 短期大学 | | | 大学院 | | | Z値 |
|------------|------|------|-----|-----|------|-----|--------|
| | 平均 | 標準偏差 | 中央値 | 平均 | 標準偏差 | 中央値 | |
| 1-1 | 4.3 | 0.62 | 4 | 4.2 | 0.39 | 4 | -0.509 |
| 1-2 | 4.7 | 0.49 | 5 | 4.3 | 0.65 | 4 | -1.316 |
| 1-3 | 4.0 | 0.85 | 4 | 3.6 | 0.79 | 4 | -1.106 |
| 1-4 | 4.6 | 0.51 | 5 | 4.3 | 0.62 | 4 | -1.340 |
| 1-5 | 4.3 | 0.62 | 4 | 3.8 | 0.62 | 4 | -1.857 |
| 1-6 | 4.4 | 0.51 | 4 | 3.8 | 0.97 | 4 | -1.833 |
| (グループについて) | 平均 | 標準偏差 | 中央値 | 平均 | 標準偏差 | 中央値 | |
| 2-1 | 4.3 | 0.67 | 4 | 4.6 | 0.51 | 5 | -0.948 |
| 2-2 | 4.0 | 0.95 | 4 | 4.2 | 0.58 | 4 | -0.256 |
| 2-3 | 4.3 | 0.65 | 4 | 3.8 | 0.72 | 4 | -1.698 |
| 2-4 | 4.3 | 0.87 | 4 | 4.2 | 0.72 | 4 | -0.509 |
| 2-5 | 4.6 | 0.67 | 5 | 4.3 | 0.65 | 4 | -1.072 |
| 2-6 | 4.3 | 0.87 | 4.5 | 4.1 | 0.51 | 4 | -0.758 |